

## コロナで変化した親切

### ①

新型コロナウイルス感染症が流行してから、自分がうつったり、身のまわりの人にうつしたりしないためには、知らない人はもちろん、お友達にも近づきすぎないことがだいじ、と言われるようになりました。

私はこのことを気にしすぎて、いままで当たり前のようにしてきたことを、やってもいいのか迷うことが多くなりました。また親切のつもりでしたことが、相手には迷惑だったかもしれないと思うできごともありました。

### ②

図書館に行ったときのことです。

本を読んでいる私の横を、ベビーカーにのった赤ちゃんと、そのお母さんが通りました。その時、赤ちゃんがおもちゃを落としてしまったのを見かけました。お母さんは気づかずベビーカーを押して行ってしまいます。

### ③

私はおもちゃを拾って、ベビーカーを追いかけて、「これ、落としましたよ」と、お母さんに渡そうとしました。

すると、お母さんは、とても驚いた顔をしたのです。

そして、おもちゃをさっと受け取ると、立ち去ってしまいました。

### ④

私は親切のつもりでおもちゃを拾ったけれど、あのお母さんは、赤ちゃんがさわるものだから、ほかの人にはさわってほしくなかったのかもしれない。

それどころか、あまり近づかないでほしいと思ったのかもしれない。

私は、おもちゃにさわらずに、教えるだけにすればよかったのかな。

### ⑤

新型コロナが広がって、これまでのような親切はむずかしくなったのかもしれない。

でも、あいさつをしてみんなを明るくしたり、校内のごみを拾ったりすることは、一人でも、私にもできることです。いつも手洗い、うがい、マスクを忘れないことも、周りの人への思いやりではないでしょうか。

大変なときだからこそ、いま私にできることを考えていきたいと思います。